

区民と区長のタウンミーティング概要

日 時	令和元年10月29日(火) 19時00分から21時00分
会 場	南中野区民活動センター 洋室1, 2号
テ ー マ	地域主体の子育て支援
出席者 区 民	計 19人 (男 4人、女 15人)
区 側	区長 企画部基本構想担当課長 南部すこやか福祉センターアウトリーチ推進担当課長
事務局	企画課職員2人、南部すこやか福祉センター職員2人、 南中野区民活動センター職員1人
一 時 保 育	1名
手 話 通 訳	無

テーマ「地域主体の子育て支援」

区長あいさつ

私が区長に就任してから1年4か月になる。今後、東京都市部においては、人口が急減する見込みはないが、自治体間競争が激しくなっていく。このような状況のなか、子育てしやすいまち、誰にとっても暮らしやすいまちであるという理念を掲げ、子育て先進区を目指して取組みを進めている。

その一環で、8月、9月に区内の児童館で、子育て中の方から意見を伺った。多種多様な意見があり、一人ひとりのニーズが違うことを感じた。色々な方の意見を聞きながら、行政として何を優先して行っていくか、しっかりと組み立てていきたい。今日のタウンミーティングでいただいた意見も政策に生かしていきたいと考えている。

各グループの発表概要

- 地域の子育てについて
 - 地域とのつながりが薄れている。地域や社会とのつながりを増やす必要がある。
 - 地域で声を掛け合って子育てしやすい環境をつくる必要がある。
 - 親子で地域に出ることは大事である。また、子どもが地域の人と知り合いになることも大事である。
 - 子どもたちにとって安全な社会ではない。子育てしづらい世の中になっている。
- 保育サービスについて
 - 教育にお金がかかる分働かなくてはいけないが、子どもを預ける保育施設が足りていないため、働けない人がいる。待機児童対策をしっかりしてほしい。
 - 今、子どもを預けている場所の運営者が閉鎖を考えていると聞いている。区が支援をしてほしい。
 - 昔は近所に子どもを預けたりすることが普通だったが、今は近所とのつながりが希薄なためそういったことがなくなっている。
- 子育て家庭について
 - 挨拶できる子どもが少なくなってきた。
 - 子どものマナーの悪さは、親から伝わっているのだと思う。
 - 子どもに手をかけすぎているように感じる。
 - 子育て中の親は、スマホから得られる情報で、情報過多になっている。
 - 地域主体の子育て支援は、昼間地域にいる子どもが対象である。働く親の支援として、短時間の支援が必要ではないか。

発表に対する区長のコメント

- 地域の子育てについて
 - 自分の子どもが、商店街の人の声かけにより、助けられたことがあった。子どもを地域で見守るという意識を多くの人を持ってもらうことが必要だと思っている。
 - 就学前の子どもの面倒を見ている親は、孤立しやすい。町会やボランティア団体のそれぞれの活動により、地域にネットワークが張られ、孤立している親がどこかで関わりをもてるようになるとよい。そのために、区は地域活動を支援しないとイケない。
 - もう一度、緩やかなつながりを地域に作っていけるよう行政として取り組みたい。
- 保育サービスについて
 - 待機児童対策には力を入れており、定員は需要より多いが、地域偏在があり、遠くへいかないと子どもを預ける場所がない状況がある。来年以降、保育園の需要が高い東中野地域に認可保育所を2つ作ることが決まっている。認可保育所は不足しているが、家庭的保育事業は子どもが集まらないという問題も起きている。国は認可外保育施設の認可保育所への移行を支援する方向性を打ち出しており、区としてもそうした支援を検討していきたい。
- 子育て家庭について
 - 親のマナーが子どもに伝わるといった意見があったが、貧困も連鎖している。行政としてどのように対策するか考えなければならない。